



へんじあいさつあとしまつ

アナウンスが流れたら素振りを一回。

ひざの屈伸運動。

右手にバットを持ち、バッターボックスまで14歩で歩く。

右左と順番にスパイクを叩いて、お尻を触ったら左足から打席に入る。

土をならして、バットを下から回す。

バットを立て、電光掲示板の文字を見つめる。

最後にユニホームの袖をつまみ、たくし上げる。

誰の事だか、お分かりでしょうか。

そう、元メジャーリーガーのイチロー選手です。

こうした決まりきった段取りの事を「ルーティン」といいます。

前号のコスモスハーモニーを書きながら、このルーティンのことを思い出しました。

彼は打席に入る前に、いつも上記の動作を行いました。

イチロー選手のルーティンは、これだけではありません。

朝は何を食べる。

トレーニングは何をする。

球場には何時に入るなどなど。

1年間365日のうち、約360日は全く同じ日課をこなします。

その日課は極めて正確で、時間のずれもほとんどないため、チームメイトがイチロー選手の行動を時計代わりにしているほどだそうです。

「最高の準備をすれば、必ず結果がついてくる」

という信念のもと、イチロー選手は大切だと思うことを全てルーティン化し、毎日欠かさずに行っているというわけです。

学校でも同様に、「大切」だから「ルーティン化」すると良い事がいくつかあります。

良い習慣は良い毎日を作り、良い人生を実現していくからです。

もちろん、「何歩で教室に入って・・・」なんて細かいことは言いません。
(笑)

例えば、以前書いた「挨拶」はぜひとも身に着けたい習慣の筆頭です。

また、「返事」もとても大切です。

その上で3番目をあげよといわれれば、「準備」を出します。

勉強するための道具（教科書やノート）を揃えておくこと。

整った字を書くために下敷きを敷くこと。

持ち物に名前を書くこと。

余計なものをしまい、机の上を使いやすく整頓しておくこと。

他にも色々ありますが、どれも些細（ささい）なことのようで、でもだからこそ続けることには大きな意味が秘められています。

最高の準備をすれば、いい結果が自然とついてくるからです。

これを、学習がスタートしてからできるだけ口うるさくならないように、でもいつも伝え続けています。

最近、そうした些細な面において、クラスの様子が大きく変わってきました。

次の授業が始まる前に、「次なんだったかなあ」と準備を始める子がどんどん増えてきたのです。

こうした1つ1つの些細な場面にこそ、子どもたちの一人ひとりとしての意識の変化や、クラス全体での成長を感じています。

一度に詰めすぎず、じっくりと変化していく姿が理想です。

大切な事だからこそ点ではなく線の指導で、繰り返し伝え続けていきたいと思えます。（文責：渡辺道治）